

岡山地域重力図 (ブーゲー異常)

Gravity Map of Okayama District (Bouguer Anomalies)

村田 泰章 [1]; 駒澤 正夫 [2]; 牧野 雅彦 [3]; 佐藤 秀幸 [4]; 名和 一成 [5]; 上嶋 正人 [6]; 岸本 清行 [5]; 大熊 茂雄 [7]; 志知 龍一 [8]; 小室 裕明 [9]; 西村 敬一 [10]; 赤松 純平 [11]

Yasuaki Murata[1]; Masao Komazawa[2]; Masahiko Makino[3]; Hideyuki Satoh[4]; Kazunari Nawa[5]; Masato Joshima[6]; Kiyoyuki Kisimoto[5]; Shigeo Okuma[7]; Ryuichi Shichi[8]; Hiroaki Komuro[9]; Keiichi Nishimura[10]; Junpei Akamatsu[11]

[1] 産総研・地調; [2] 産総研・地質情報; [3] 産総研; [4] 大日本コンサルタント(株); [5] 産総研; [6] 産総研・地調; [7] 産総研・地質情報; [8] 中部大・工・理学; [9] 島大・総合理工・地球; [10] 岡山理大・総合情報; [11] 岡山理科大・総合情報
[1] GSJ, AIST; [2] GSJ, AIST; [3] GSJ, AIST; [4] NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS; [5] GSJ, AIST; [6] IGG, GSJ, AIST; [7] GSJ, AIST; [8] Coll. Eng., Chubu Univ.; [9] Geoscience, Shimane Univ; [10] Fac. of Informatics, Okayama Univ. of Sci.; [11] Fac. Sci., Okayama Univ. of Sci.

産業技術総合研究所地質調査総合センターの重力基本図の no.27 として、岡山地域の重力図を編集した。

本重力図の図郭は、20 万分の 1 地勢図「岡山及び丸亀」の北部「高梁」、「松江」の南部をカバーする北緯 34 度 20 分から 35 度 40 分、東経 133 度から 134 度 7 分 30 秒である。

本重力図の編集に用いた重力測定点のうち陸域で取得された測定点は、石油天然ガス・金属鉱物資源機構、島根大学、名古屋大学、産業技術総合研究所地質調査総合センター、新エネルギー・産業技術総合開発機構、岡山理科大学、岡山県、国土地理院、新エネルギー財団、ジオサイエンス(株)(1997 年当時)、京都大学理学部、愛媛大学によって取得されたものである。この中で、名古屋大学、島根大学、ジオサイエンス(株)、京都大学理学部、愛媛大学の測定データは、The Gravity Research Group in Southwest Japan (2001) に収録されたデータであり、石油天然ガス・金属鉱物資源機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構の測定データは、地質調査総合センター(2004) に収録されている。海域のデータについては、地質調査所白嶺丸 GH77-2 及び GH86-2, GH86-4 航海により取得されたデータ、東京大学海洋研究所淡青丸 KT911 次航海(小泉ほか, 1994) により瀬戸内海で取得されたデータ、海上保安庁が取得したデータを使用した。

本重力図の編集にあたり、地質調査総合センターでは 2001 年から 2006 年にかけて、既存重力測定点の分布密度が比較的良かった倉敷市周辺、瀬戸内海の島々、岡山県と鳥取県の県境付近について調査を行うと共に、2000 年 10 月 6 日に発生した鳥取県西部地震の震源域においても、詳細な重力分布を把握する必要があると判断し、精力的に重力調査を実施した。また図郭全域において、既存データの精度が危ぶまれる箇所について補足調査を行った。新規測定点の合計点数は 1,136 点であり、その測定点の位置は 2 周波 GPS 受信機による高速スタティック測量により求めた。